

JCESニュース

Japan Comparative Education Society

NO.3

学会の魅力を高めるために

- WCCES実行委員会 & CESEに出席して -

会長 馬越 徹

私は去る7月、ロンドン大学（Institute of Education）を会場に開催された世界比較教育学会（WCCES）実行委員会とヨーロッパ比較教育学会（CESE）第20回大会に参加する機会を得た。その際、世界の同僚とともに、比較教育学会の魅力（attractiveness）を高めるにはどうすればよいかについて、若干の意見交換することができた。その一端を以下に紹介し、会員各位にも学会の魅力度アップの秘策を練っていただきたい。

まず第一は、何といても年次大会（Annual Conference）の持ち方である。6月末に開催された日本比較教育学会第38回大会は九州大学関係者のご尽力により、成功裏に終えることができたが、第39回大会に向けてさらなる新機軸の企画が望まれる。ちなみに今年のCESEの場合は、実行委員会が掲げた全体主題「教育システムは終焉に向かっているのか - 世界の中のヨーロッパ」のもとに、すべての発表は8分科主題（working group）の下で行われていた。大会最終日には記念講演（Lauwerys Lecture）が組まれており、“Reshaping Education in Globalising, Hybridising, Tribalising Times”（by Jane Kenway）と題する刺激的なものであった。

第二に重要なことは、言うまでもなくジャーナル（機関誌）の充実である。われわれのジャーナルは（『比較教育学研究』）は年々充実してきているが、世界の同僚たちはそのフルテキストを英語で読みたいと言っている。できることならこれを完全に英訳して世界の読者に提供できないものであろうか。これまで英文ジャーナルを別途作る案も検討されたことがあるが、直接翻訳する方が日本の学会の水準と問題意識をダイレクトに世界の多くの仲間に伝えることができるように思われる。もちろん私見（夢）である。これを実現するには翻訳経費問題を解決しなければならないが、決して不可能なことではない。もう一つ重要なことは、編集における改革の積み重ねである。英国国際比較教育学会（BAICE）の機関誌・最新号（Compare, Vol.32, No.2, 2002）を編集したRosemary Preston教授は、この号から、既掲載論文への応答論文（response）の掲載、博士学位（Ph.D.）論文の摘要掲載、を導入するという二つの革新（innovation）を達成したと得意げに語っていた。われわれにも参考になるアイデアであろう。

第三は、ITをフルに活用した比較教育学関連情報の収集と発信である。この点、WCCESの事務局長でもあるMark Bray教授率いる香港大学・比較教育学研究センターの活動には目を見張るものがある。巨大な組織でなくても、世界の比較教育学情報をネットワーキング（全球ネットワーク）することにより、大きな影響力を発揮できることを証明している。日本の学会や比較教育学研究室にとって大いに参考になる。

いずれにしても比較教育学会の魅力を高めるためには、現実に世界の各国・地域で生起している教育問題を、グローバルな感性をもって「問題化」することを通じて、それを会員が共有できる様々な工夫が求められていると言える。

第38回大会を開催して

大会準備委員長 望田 研 吾

第38回大会は6月29日(土)、30日(日)の両日、九州大学教育学部を当番校として開催されました。開催にあたっては、できるだけ新機軸を出してほしいという馬越会長からの要望もあって準備委員会で種々検討しましたが、時間的、場所的制約もあって従来通りの構成になりました。ただ、自由研究発表部会については比較の視点を強調するために、できる限り地域に限定された部会ではなく研究テーマに焦点を当てた構成を意図しました。もう一つの試みは国際学会などではチェアパーソンはほとんど一人ということもあって、すべての部会の司会を一人にしたことです。司会の方の負担はあったかと思いますが、進行もほとんど問題はなく、会員の方々からおおむね好意的な評価をいただきました。

当初、九州という地での開催ということで、どの程度発表者、参加者があるのかと少し案じていました。しかし、ふたを開けてみると自由研究発表申し込み件数は82件(取り消しが2件)で、今までで最多となりました。また、大会参加者は臨時会員も含め298人、懇親会参加者が約200人と盛会となり、準備委員会としても大変嬉しく思っています。また、数の面だけでなく自由研究発表の質も大いに向上していたのではないかという印象を持ちました。

今回の公開シンポジウムは「学力問題を考える 国際比較」というテーマで、中国、韓国からの招待者を含め、4人のパネリストに報告をお願いしました。大会前に新聞、テレビなどでPRを行ったところ、問い合わせが九州・山口などからたくさんあり、あらためて一般の関心の高さを知らされました。当日の参加者は約300名で教育関係者、行政、父母の参加も多く、公開シンポジウムとしての役割を十分果たせたのではないかと考えています。もう一つの特徴

はマスコミの注目でした。会場には二、三の新聞社が取材に来ていましたし、地元NHKのテレビ・ニュースでもかなり詳しく報道されました。また、シンポジウムの模様が朝日新聞の「教育ウィークリー」でも紹介されました。わが国で大きな問題となっているテーマについて、日本比較教育学会としての特質を生かして正確な情報を提供し論議に貢献することも、学会の重要な社会的アカウンタビリティの一つであることを強く認識しました。

今回の大会を通じて、日本比較教育学会が質量とも益々充実してきているとの感を強くしました。あらためて会員の皆様の積極的なご支援、ご参加に感謝申し上げます。



懇親会での餅つき：左から馬越会長、
梶山九州大学総長、望田大会準備委員長

オーストラリア・ニュージーランド 比較国際教育学会

前会長 アンソニー・ウェルチ
(Anthony Welch)



オーストラリア・ニュージーランド比較国際教育学会（以下、ANZCIES）は1972年に設立され、30年にわたり教育問題を、グローバル・リジョナル・ナショナル・ローカルな観点から、また社会的・文化的文脈のなかで研究し大きな成果をあげてきた。われわれの学会は創設以来、ヨーロッパおよび北米地域の比較国際教育学会はもちろんであるが、アジア・太平洋地域の比較教育学会との協力関係を重視してきた。

ANZCIESは世界比較教育学会（WCCES）の構成学会の一つとして活動してきており、1996年にはシドニー大学を会場に、私自身が大会実行委員長として第9回世界比較教育学会を開催したことは記憶に新しい。同大会への参加者は日本を含む50か国から600人を数えた。なお、現在のWCCES会長は元ANZCIES会長のアン・ヒックリング＝ハドソン（Ann Hickling-Hudson）女史であり、私とフィリップ・ジョーンズ（Philip Jones）はWCCESの元副会長を務めた経験がある。2002年7月ロンドンで開催されたWCCESの実行委員会には、私自身がANZCIESを代表して参加した。日本からは日本比較教育学会（JCES）を代表して馬越会長が出席した。そこで、次期WCCES大会（第12回）は2004年秋にキューバ（ハバナ）で開催されることが決定されたが、ANZCIESとJCESはキューバ大会を成功させるべく共に協力していきたい。

周知のように比較教育学研究は、20世紀の初頭に国民教育制度や政策を研究することを目的にスタートしたのであるが、このところ教育のグローバル化・国際化の潮流のなかで、文化・社

会・政治経済の観点からの比較研究が盛んに行なわれるようになってきている。われわれの学会においてもその傾向が強い。この機会に、ANZCIESの2002年次大会について紹介し、日本比較教育学会の皆さんの参加（個別発表およびパネル企画）を歓迎したい。

今大会のテーマは、教育の国際化をアジア・太平洋地域の文脈において批判的に検討することを目的としている。また危機の時代において教育の国際化がもたらす諸結果（実践、緊張、矛盾）についても討論する予定である。われわれは、教育観や教育実践、教師と学生の関係などが益々複雑化する時代に住んでいる。こうした問題を各学校段階別に、またグローバルおよびローカルな文脈で再吟味し、新しい時代の教育の方向性を模索したいと考えている。大会の概要は、下記の大会ホームページを参照願いたい。

主題：Internationalizing Education in the Asia-Pacific Region; Critical Reflection, Critical Times
日時：2002年12月6～8日
会場：University of New England Armidale, New South Wales, Australia
詳細は、<http://fehps.une.edu.au/anzcies/ANZCIESConf2002.html> を参照。



平塚賞を受賞して

服部 美奈
(岐阜聖徳学園大学)

この度は、拙著『インドネシアの近代女子教育～イスラーム改革運動のなかの女性』に対してもったいないほどの賞をいただき、本当にありがとうございました。これまで諸先生方からさまざまな場面で暖かい励ましやご助言をいただき、また支えていただいたからこそ今回の受賞があることを切に感じています。

拙著はインドネシアにおける女子教育の展開をイスラーム改革運動との関連で明らかにしたのですが、特にイスラーム解釈のはざまに生きるムスリム女性の姿を描くことに主眼をおきました。調査地で出会う華やかなムスリム服を身に纏った女性の生を、同時代に生きる自分の生と重ねて考えたいと思ったからです。

しかし研究を進めるにつれ、異文化を知る難しさや自分の力量の限界、学問の難しさを痛感しました。今、一つのテーマを書き終えて感じる安堵感以上に、目の前に広がるこれからの課題に気の遠くなるような心持ちもしています。

今まで多くの方々のお世話になるばかりでした。今後は自分から還元していけるよう努力するつもりです。本当にありがとうございました。



第13回平塚賞応募作品の募集

平塚賞運営委員会は今年度も下記の要領で第13回平塚賞の応募作品を募ります。他薦・自薦を問いません。ふるってご応募下さい。なお、応募要領の詳細は学会紀要『比較教育学研究』第28号(229頁)に掲載の「平塚賞規定」をご参照下さい。

- ・対象作品
2002年1月～12月に公刊された比較教育学に関する著書・論文
- ・締め切り
2003年1月31日(当日消印有効)
- ・送付先
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学大学院教育学研究科内
日本比較教育学会・平塚賞運営委員会
委員長 江原武一 宛



紀要刊行規定・投稿規定 改訂のお知らせ

紀要投稿規定については、編集委員会では投稿時に規定に即していないことによる不受理をできるだけ避けるために、より厳密にすることが必要であるとして、投稿規定の改訂とそれに伴う刊行規定の改訂を01年度第2回常任理事会(3月17日開催)に提案しました。そこで基本的な改定内容について了承された後、02年度第1回常任理事会及び全国理事会(いずれも6月28日開催)で承認され、6月29日開催の総会で報告されました。なお、02年度第1回常任理事会では、従来の投稿規定を投稿要領と変更することも決定されました。

改訂内容は別欄のようになっています。新しい投稿要領のポイントは原稿規格、図・表・注の規格、そして提出書類・原稿をより明確にしたことです。投稿される方は、この要領を厳守するようにお願いします。

日本比較教育学会紀要刊行規定 (2002年6月28日理事会改訂)

1. 名称：『比較教育学研究』とする。
2. 刊行回数：年1回とする。
3. 内容：会員の研究論文・書評・文献紹介、会員の研究活動・世界の比較教育学研究に関する情報等を掲載する。
4. 体裁：A5版横組み、200頁程度とする。
5. 掲載論文：自由投稿および年次大会における課題研究・シンポジウムの中から、編集委員会の合議により掲載論文を決定する。また、特集論文を掲載することができるものとする。
6. 編集委員会：理事会が委員会及び委員長を委嘱する。委員の数は10名以内とし、委員は全国的な範囲で選ぶものとする。その任期は2年とし、再任は妨げない。
7. 編集事務局：編集委員長が編集事務局を定める。
8. 配布：会員には無償配布とする。会員外には市販とする。

9. 執筆要領：日本比較教育学会紀要投稿要領によるものとする。

日本比較教育学会紀要投稿要領 (2002年6月28日理事会改訂)

1. 投稿論文テーマ
論文のテーマは日本比較教育学会の活動の趣旨にそうものとする。
2. 投稿論文資格
投稿論文は未発表のものに限る。ただし、口頭発表及びその他の配付資料の場合はこの限りではない。
3. 原稿規格
 - (1) ワ - プロ原稿で提出する場合
A4判用紙に1行36字×30行(1,080字)の規格で印字し、16枚以内(但し字数は16,800字以内)とする。1枚目は、冒頭に論文題目のみを記入し、本文は10行目から始めるものとする。
 - (2) 原稿用紙で提出する場合
A4版400字詰原稿用紙(横書き)を用いて42枚(題目を除いて16,800字)以内の完成原稿とする。
 - (3) 上記原稿規格及び規定枚数の中には、図・表・注・引用文献・参考文献等を含むものとする。
 - (4) 紀要編集委員会が特に枚数を指定した原稿は上記を適用しないものとする。
4. 図・表・注等の規格
 - (1) 図・表は原則として5点以内にとどめ、ワープロ原稿の場合には論文中に挿入または貼付し、原稿用紙の場合には原稿中に挿入せず別の用紙に貼付し、その印刷位置・サイズをあらかじめ原稿に表示しておくものとする。
 - (2) 注・引用文献・参考文献等は原稿末尾に一括して掲げるものとする。
 - (3) 注の番号形態は「.....」とする。
5. 提出原稿・書類
 - (1) 投稿にあたっては以下の原稿及び書類を提出すること。なお、提出された原稿及び書類は原則として返却しない。
原稿4部(内3部は複写可)

事務局便り・お知らせ

和文題目及び約800字の和文要旨 4部
英文題目及び800語～1,000語の英文要旨 4部

部

()には執筆者氏名、所属機関名を記載しないこと)

下記の事項を記載した別紙1部

- ・執筆者氏名(日本語及び英語表記)
- ・所属機関名(日本語及び英語表記)
- ・論文題目(和文及び英文)
- ・連絡先等

(なお氏名等の英語表記については『比較教育学研究』巻末の英文目次を参照のこと)

6. 英文原稿規格

(1) A4版用紙(1頁32行、約440語)12枚以内の完成原稿とする。

(2) 上記規定3.及び4を同様に適用するものとする。

(3) 投稿にあたっては以下の原稿及び書類を提出すること。なお、提出された原稿及び書類は原則として返却しない。

原稿4部(内3部は複写可)

英文題目及び約440語の英文要旨 4部

()には執筆者氏名、所属機関名を記載しないこと)

下記の事項を記載した別紙1部

- ・執筆者氏名(英語表記)
- ・所属機関名(英語表記)
- ・論文題目(英文)
- ・連絡先等

(なお氏名等の英語表記については『比較教育学研究』巻末の英文目次を参照のこと)

7. 提出期限及び提出先

原稿及び書類は毎年11月20日(当日消印有効)までに紀要編集委員会事務局宛に提出するものとする。

バックナンバーの販売

日本比較教育学会紀要のバックナンバー(在庫分)を販売しております。ご希望の方は学会事務局までお問い合わせ下さい。なお、各号の特集テーマおよび本体価格はJCESニュース第2号(4頁)に記してありますのでご覧ください。

紀要第29号への投稿募集

紀要編集委員会

紀要第29号の編集の基本的方針は28号と同様のものです。自由投稿論文の締め切り、原稿送付先は昨年と同じく下記にあるとおりです。可能な限り多くの論文を掲載したいと考えています。本ニューズレター掲載の新投稿要領を熟読の上、奮ってご投稿ください。

自由投稿論文受付について

・締め切り:

2002年11月20日(水)(当日消印有効)

・送付先:

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1

九州大学教育学部内

日本比較教育学会紀要編集委員会

TEL & FAX 092-642-3116

email:takumedu@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

理事選出に関する細則改正について (会則第10条関係)

2002年度第1回理事会(2002年6月28日)において、理事選出に関する細則の第3条が、下記の通り、改正されましたのでお知らせいたします。改正のポイントは、現行の地区所属会員数20名ごとに理事1名の原則(端数切上げ)を、会員数30名ごとに理事1名の原則(端数四捨五入)にする[第3条]点にあります。

(新:第3条)

理事の数は地区ごとにその全会員数に応じて定める。その基準は改選年度の4月1日現在をもって、その地区所属会員数について、30名ごとに理事1名を原則とし、端数四捨五入とするが、各地区別定数の最終決定は理事会が行う。

(旧:第3条)

理事の数は地区ごとにその全会員数に応じて定める。その基準は改選年度の4月1日現在をもって、その地区所属会員数について、20名ごとに理事1名を原則とし、端数切上げとするが、各地区別定数の最終決定は理事会が行う。

事務局便り・お知らせ

日本比較教育学会役員一覧

(2002-2003年度)

(五十音順、敬称略)

会長 馬越 徹
事務局長 西野 節男

理事(太字は常任理事)

(北海道・東北地区)

夏目 達也 宮腰 英一

(関東地区)

阿部 洋 天野 正治 新井 郁男
今村 令子 潮木 守一 江淵 一公
小澤 周三 金子 忠史 川野辺 敏
木村 浩 窪田 眞二 桑原 敏明
渋谷 英章 嶺井 明子 村田 翼夫

(東海・北陸地区)

碓井知鶴子 馬越 徹 大塚 豊
近藤 孝弘 西野 節男

(近畿地区)

石附 実 江原 武一 小島 勝
杉本 均 田中圭治郎 西岡 正子
原 清治 前平 泰志

(中国・四国地区)

金 龍哲 佐々木 司
仙波 克也 二宮 皓 藤井 泰

(九州地区)

稲葉 継雄 弘中 和彦 望田 研吾
山田 達雄

監査

小林 順子 丹羽 孝

幹事(太字は常任幹事)

(北海道・東北地区)

本図 愛実

(関東地区)

沖 清豪 鈴木 康郎 橋本 美保

(東海・北陸地区)

近田 政博 服部 美奈

(近畿地区)

松久 玲子 谷川 至孝

(中国・四国地区)

中矢 礼美

(九州地区)

竹熊 尚夫 井手 弘人

紀要編集委員会

望田 研吾(委員長)

一見真理子 今井 重孝 金 龍哲
近藤 孝弘 斉藤 泰雄 渋谷 英章
杉本 均 田中圭治郎 夏目 達也
平田 利文

研究委員会

村田 翼夫(委員長)

池田 輝政 岩佐 信道 黒田一雄
小島 勝 斉藤 泰雄 佐藤真理子
園山 大祐 宮腰 英一

平塚賞運営委員会

江原 武一(委員長)

石附 実 馬越 徹 大塚 豊
西野 節男 二宮 皓 弘中 和彦
宮腰 英一 村田 翼夫 望田 研吾

国際委員会

二宮 皓(委員長)

内海 成治 大塚 豊 渋谷 恵
千葉 泉弘

研連担当理事

嶺井 明子

データベース担当理事

窪田 眞二

第39回大会のご案内

日本比較教育学会第39回大会は、玉川大学で以下の要領で開催します。大会日程等の詳細はあらためてご案内します。

会期：2003年6月28日(土)～29日(日)

会場：玉川大学

連絡先：東京都町田市玉川学園6-1-1

玉川大学教育学部内 日本比較教育学会第39回大会
準備委員会事務局

TEL & FAX：0427-39-8017

事務局便り・お知らせ

新入会員 (入会申し込み順)

2001年11月～2002年6月

玉岡賀津雄 広島大学留学生センター
 鈴木 京子 お茶の水女子大学大学院生
 牧 貴愛 名古屋大学大学院生
 中村 浩子 東京大学大学院生
 片野 英一 桜美林大学大学院生
 関口 夕貴 松本市立今井小学校
 姜 明淑 ソウル大学校大学記録管理室
 後藤 貞郎 なし
 ソンバット・ルンラッサミー
 広島大学大学院生
 藤岡 千砂 姫路獨協大学
 瀧田 修一 神戸大学大学院生
 山田 明 九州共立大学八幡西高校
 洪 美里 上智大学大学院生
 江川 えみ 国際開発センター
 野田 真里 名古屋大学国際開発研究科
 多田 順子 玉川大学大学院生
 小林 茂子 中央大学大学院生
 ピアルケ千咲 東京大学教育学研究科
 COE研究員
 松本 剛幸 兵庫教育大学大学院生
 小原 一馬 広島大学教育開発国際協力研究
 センター
 小原 優貴 アクセンチュア
 河野佐恵子 九州大学大学院生
 長嶺 宏作 日本大学大学院生
 出口 真弓 広島大学大学院生
 佐藤 仁 広島大学大学院生
 田口 明子 広島大学大学院生
 卜部 匡司 広島大学大学院生
 高瀬 洋行 早稲田大学大学院生
 横田 和子 早稲田大学大学院生
 渡瀬 恵一 玉川学園小学部
 金田 久美 玉川大学大学院生
 高橋 若菜 韓国・光州女子大学校
 千原かや乃 玉川大学大学院生
 牧野 篤 名古屋大学教育発達科学研究科
 嶋田 玲子 J.P.モルガン・チェース
 横山 佐紀 名古屋大学大学院生
 鶴見 直城 中部大学大学院生
 松本 麻人 名古屋大学大学院生
 佐野 享子 筑波大学大学研究センター
 山本以和子 ベネッセコーポレーション
 秋吉 博之 神戸大学大学院生

青木麻衣子 北海道大学大学院生
 二井紀美子 名古屋大学大学院生
 山崎 直也 東京外国語大学大学院生
 坂元 一光 九州大学
 談 謙 京都女子大学大学院研修生
 陸 樹芳 日本女子大学大学院生
 太田 宏 一橋大学商学研究科留学生
 センター
 小原 芳明 玉川学園・玉川大学
 小原 一仁 UCLA大学院生
 石森 哲成 玉川大学教育学部
 山本 繁夫 玉川大学教育学部

会費納入のお願い

会費の納入にご協力をお願いします。3年を超えて未納の方は会員資格を失いますので、至急、納入下さい。なお、国内の方は、事務処理の都合上、できる限り下記の郵便振替口座宛にご送金をお願いします。

・郵便振替口座 00820-6-16161
 (年会費 通常会員 9,000円 学生会員 5,000円)
 また、海外の方は下記銀行口座宛をお願いします。
 ・銀行口座：三井住友銀行 本山支店
 普通 6611784 日本比較教育学会
 ・Bank Account: Mitsui Sumitomo Bank, Motoyama
 Branch General 6611784
 Japan Comparative Education Society
 ・小切手等の宛先としても略称のJCESは使わず、必ずJapan Comparative Education Societyをお使い下さい。

編集後記

JCESニュース第3号をお届けします。
 会員のみなさんに読んで頂けるような紙面づくりを心がけてきましたが、いかがでしょうか。
 今回は規定関係の改訂に紙面の多くを割くことになりましたが、「紀要刊行」も「理事選出」も大変重要な内容ですので、熟読いただき改訂内容をご理解頂きますようお願い申し上げます。(N.S.)

学会事務局

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 1
 名古屋大学大学院教育発達科学研究科内
 TEL&FAX : 052-789-2634
 E-mail: jces@educa.nagoya-u.ac.jp